

## 1. 土器川の概要

## (1) 流域の概要

土器川は、香川県中央部に位置する幹川流路延長33km、流域面積127km<sup>2</sup>の一級河川である。その流路は、香川県仲多度郡まんのう町勝浦の讃岐山脈を水源とし、明神川を合流後に北西に流れ、まんのう町炭所西常包にて讃岐平野に出る。その後、大柞川、古子川、清水川等を合わせ、丸亀市において瀬戸内海に注ぐ。

その流域は、南北に長く帯状を呈し、香川県の丸亀市、まんのう町の1市1町からなり、流域内の拠点都市である丸亀市は、人口や資産が集中する香川県第二の都市である。また、この地域は、扇状地を形成する讃岐平野に水稻や畑作を中心とする田園地帯が広がり、臨海部では第二次産業の集積が見られるなど、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。



図-1.1.1 土器川水系流域図



# 1. 土器川の概要



土器川上流部



土器川中流部（天神床止付近）



土器川下流部（垂水橋付近）



土器川下流部（中方橋付近）



土器川下流部（土器川潮止堰付近）



土器川河口部



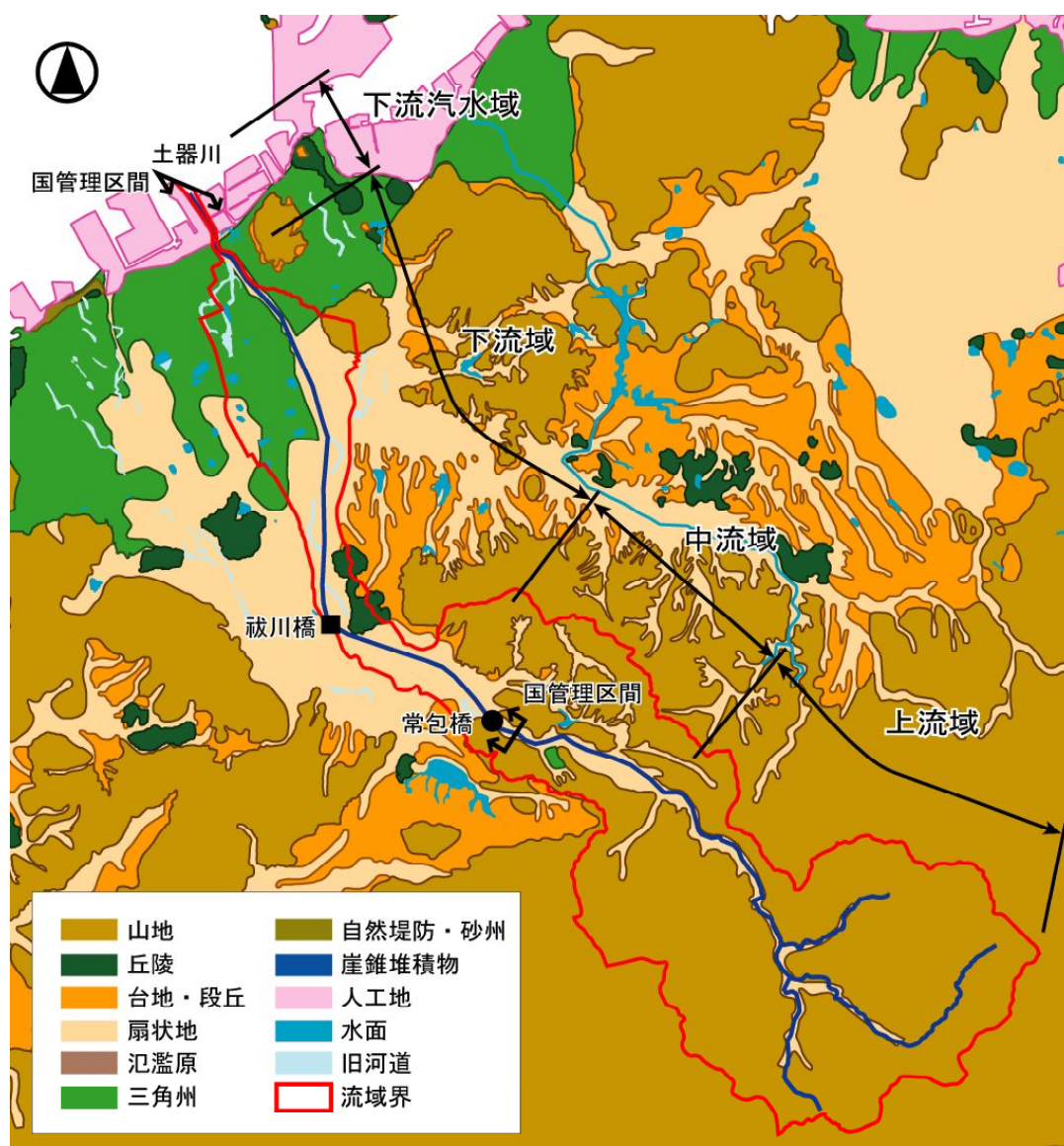
## (2) 地 形

土器川流域は、流域形状が南北約33km、東西約5kmの帯状をなしており、流域中央部のまんのう町炭所西常包付近（河口から約19km程度遡った地点）を境に、南部の山地と北部の扇状地に分けられる。

南部の山地は、<sup>りゅうおうざん</sup>竜王山や<sup>だいせんざん</sup>大川山などの讃岐山脈の深い侵食谷が形成された急峻な山地で構成される。

北部の扇状地は、まんのう町常包付近を扇頂部として北西方向に広がり讃岐平野が開け、土器川はその中央部を北流し、この平野部に至っても河床勾配は急で、洪水は短時間に一気に河口まで到達する全国有数の急流河川である。

また、下流平野部は、地盤高が土器川の計画高水位よりも低いため、潜在的に堤防の決壊による被害拡大の危険性を有している。



出典：「四国地方の古地理に関する調査報告書 川と人との歴史ものがたり」に流域界を加筆

図-1.1.2 土器川流域の地形分類図

1. 土器川の概要

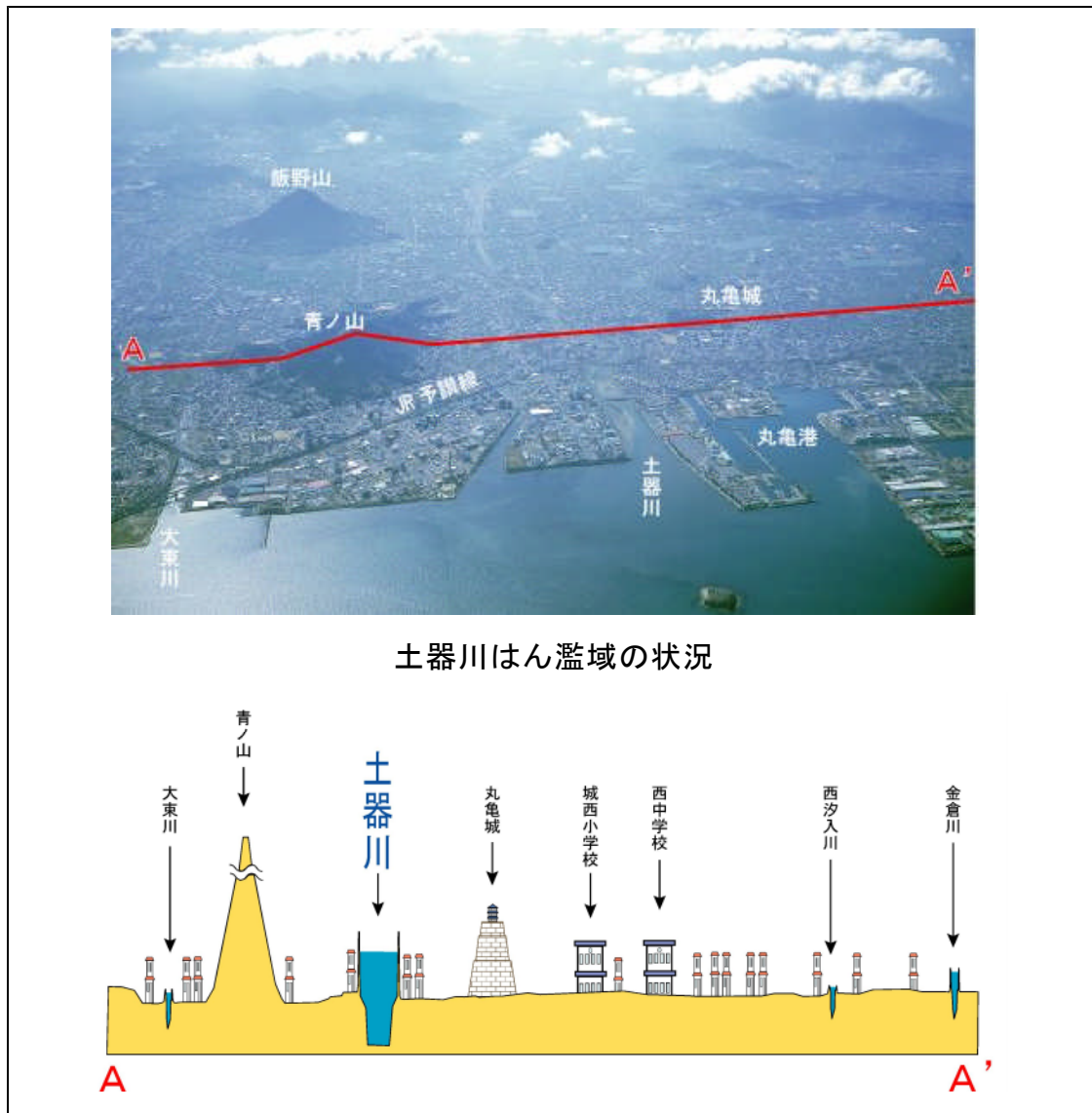


図-1.1.3 はん濫域横断図 (A-A' 断面)

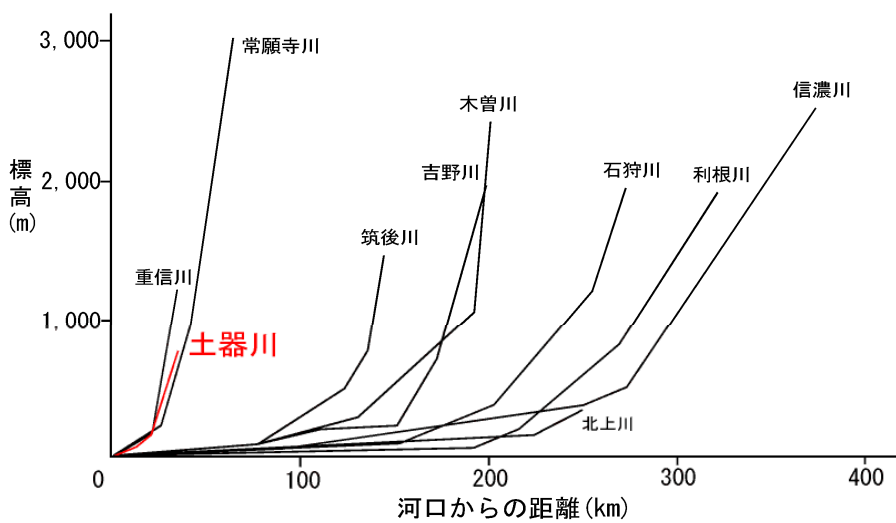
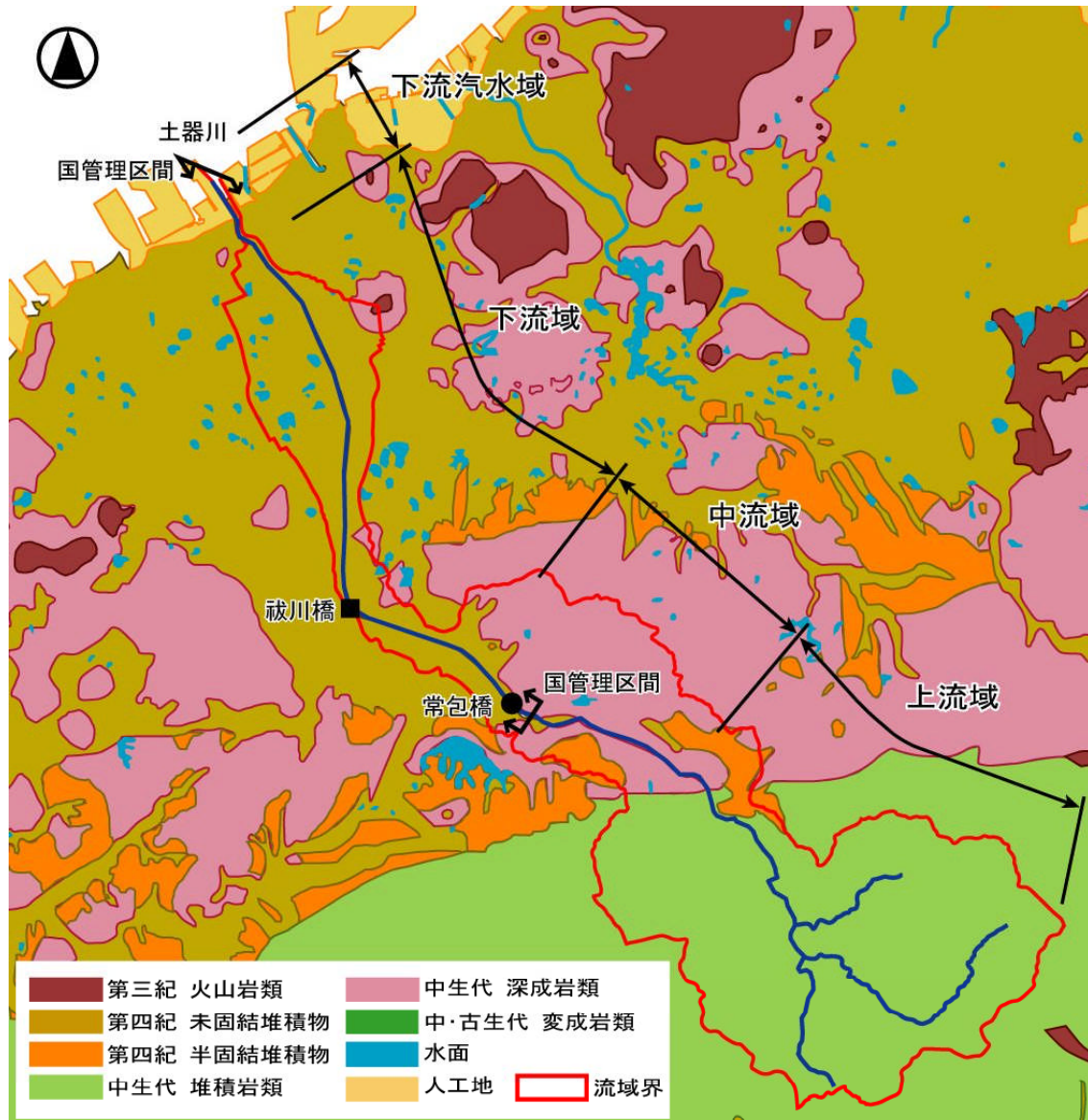


図-1.1.4 河道勾配の比較図

(3) 地質

流域の地質は、四国中央部を東西に走る中央構造線の内帯に属し、上流域は砂岩泥岩互層からなる和泉層群、中流域は領家帯花崗岩類より構成され、これらは風化がかなり進行している。下流域は沖積層より構成され、礫・砂・粘土が分布する。



出典：「四国地方の古地理に関する調査報告書 川と人との歴史ものがたり」に流域界を加筆

図-1.1.5 土器川流域の表層地質図



1. 土器川の概要

(4) 気象

土器川流域は瀬戸内海式気候に属し、年平均気温は約16℃（アメダス<sup>たどつ</sup>多度津観測所1986年～2011年の平均）と温暖で、流域の平均年間降水量は約1,200mm程度である。土器川水系の降水量は、四国の太平洋側と比較すると少なく、年間の降水量の大部分は梅雨期と台風期に集中している。

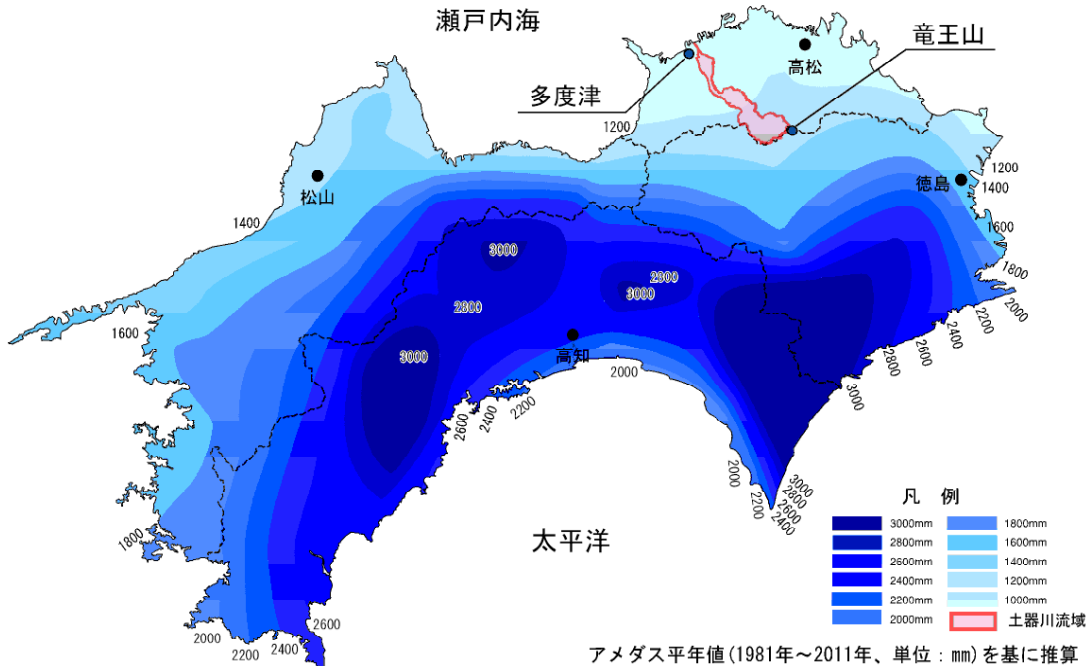
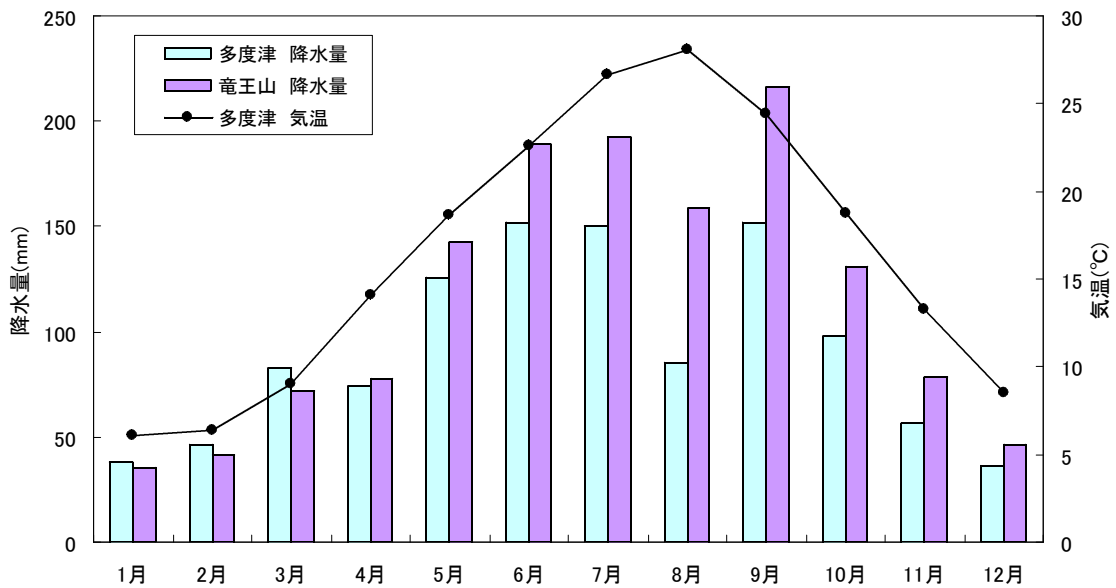


図-1.1.6 四国の年平均降水量



出展：気象庁資料

図-1.1.7 月平均気温・月平均降水量(S. 61～H. 23年の平均)

(5) 流域及び想定はん濫区域の人口

土器川流域の関係市町である丸亀市（旧飯山町、綾歌町含む）、まんのう町（旧満濃町、琴南町、仲南町）の1市1町の人口は約13万人（平成17年国勢調査）であり、下流部の丸亀市は関係市町人口の約9割弱を占め、香川県第二位の人口を誇る。

土器川流域内人口は、平成17年時点で約4万人と近年の推移は横ばいにあるが、想定はん濫区域内人口では、平成17年時点で約12万人と流域内人口の約3倍もの人口となっており、また、昭和43年の人口に比べ約2倍に増加している。

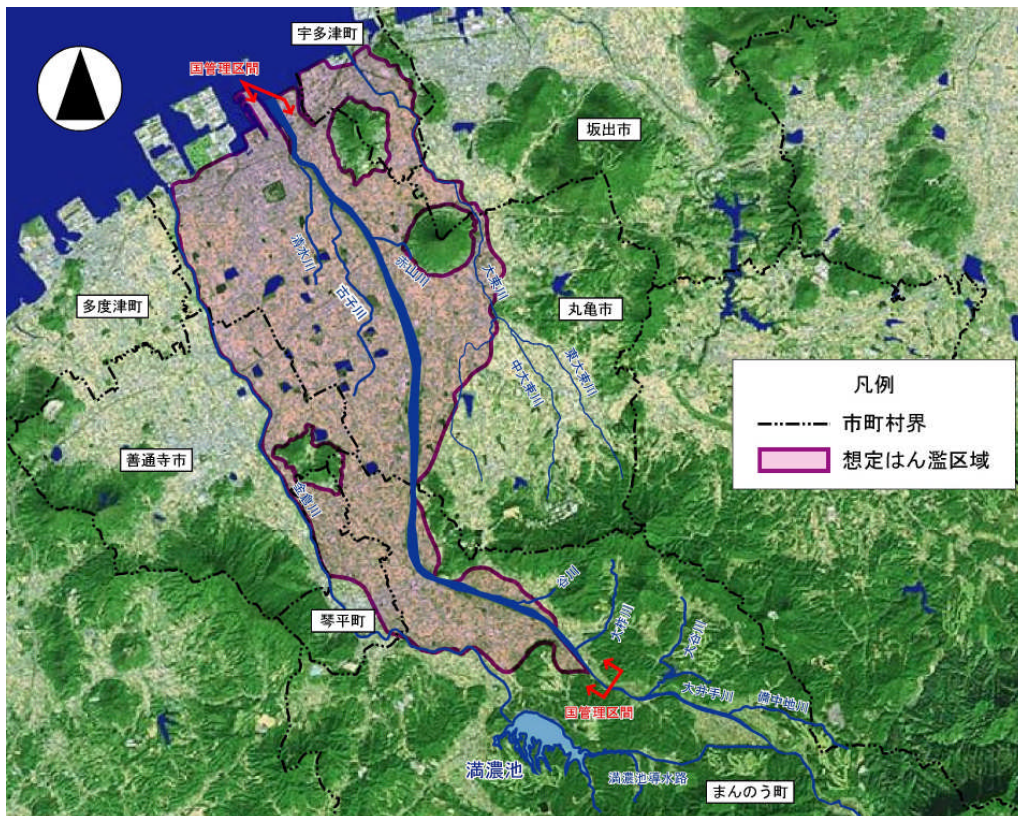
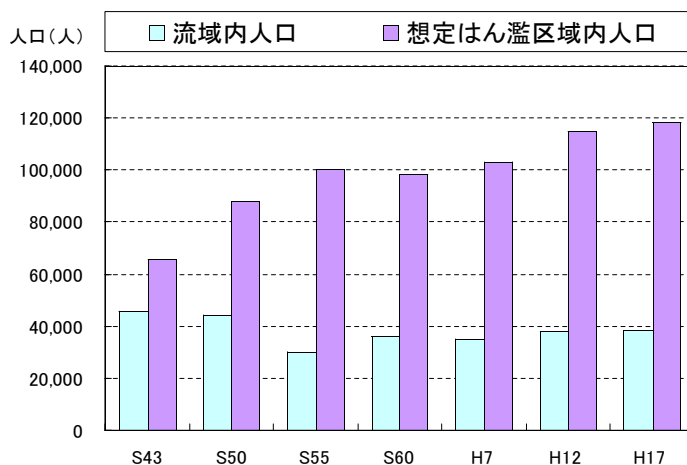


図-1.1.8 土器川周辺地形と想定はん濫区域



出典：河川現況台帳

図-1.1.9 土器川流域内人口と想定はん濫区域内人口の変遷

1. 土器川の概要

(6) 土地利用及び産業

平成18年時点での流域及び想定はん濫区域の土地利用は、森林が約51%、水田や畑地などの農地が約33%、宅地などの市街地が約10%となっている。

平野部においては、臨海部から山地部の南方へ市街化が進行し、洪水がはん濫した場合に想定される被害は増大する傾向にある。

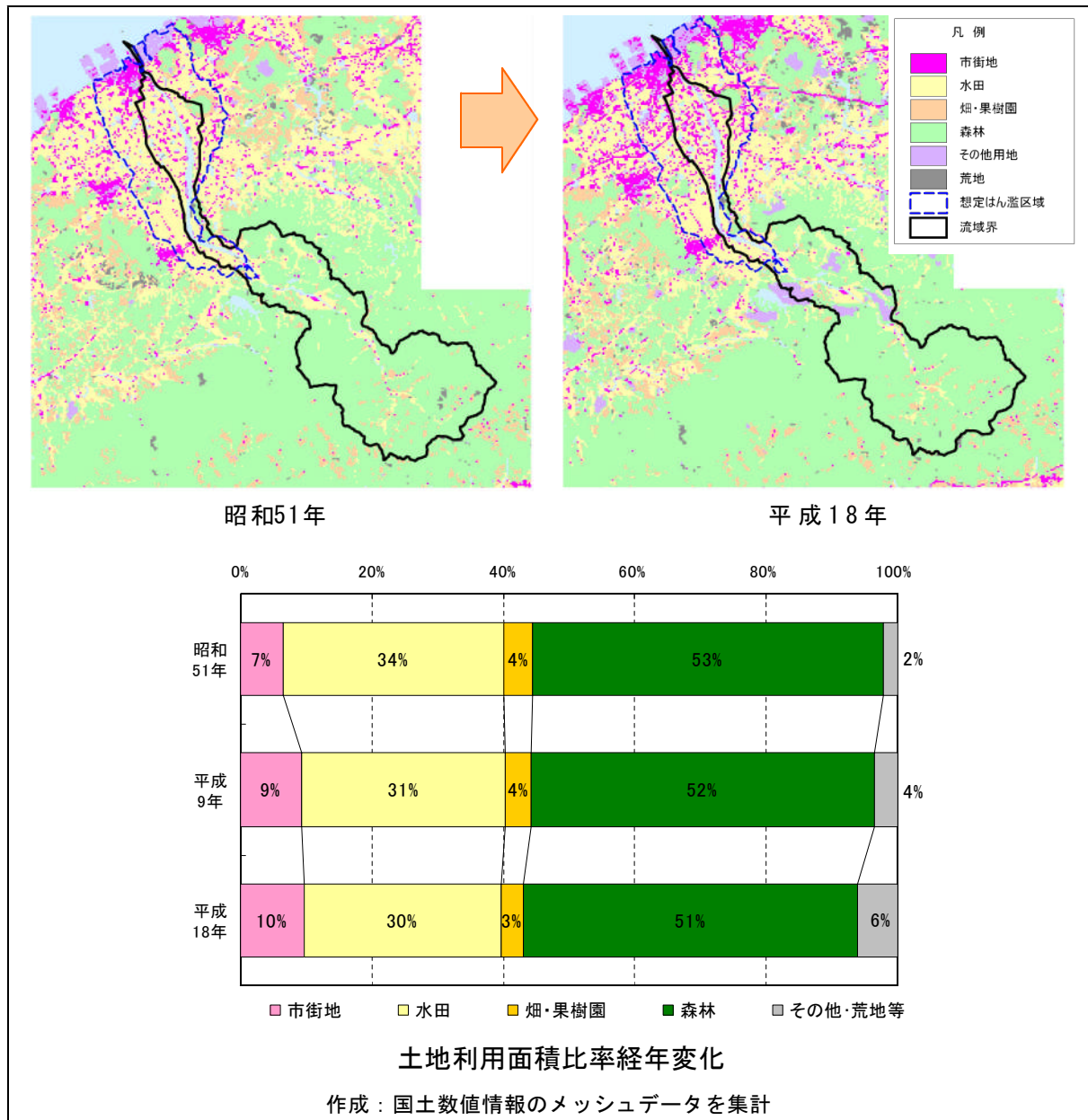
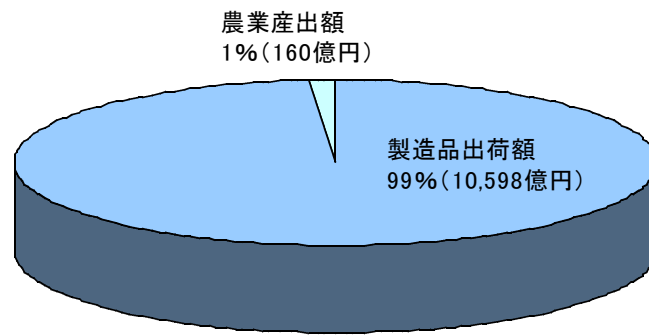


図-1.1.10 流域及び想定はん濫区域の土地利用の変遷

土器川の想定はん濫区域に関係する3市3町（丸亀市、坂出市、善通寺市、宇多津町、琴平町、まんのう町）は、温暖な気候に恵まれ古くから農業が営まれてきた地域であるが、農業産出額は160億円、対して工業による製造品出荷額は10,598億円と多くなっている。

地場産業では、全国シェアの90%を占める丸亀市の「うちわ」が平成9年5月に国の伝統工芸品に指定されている。





出典：工業統計調査、生産農業所得統計（平成18年度調査）より3市3町を集計

図-1.1.11 想定はん濫区域の関係3市3町の製造品出荷額・農業産出額

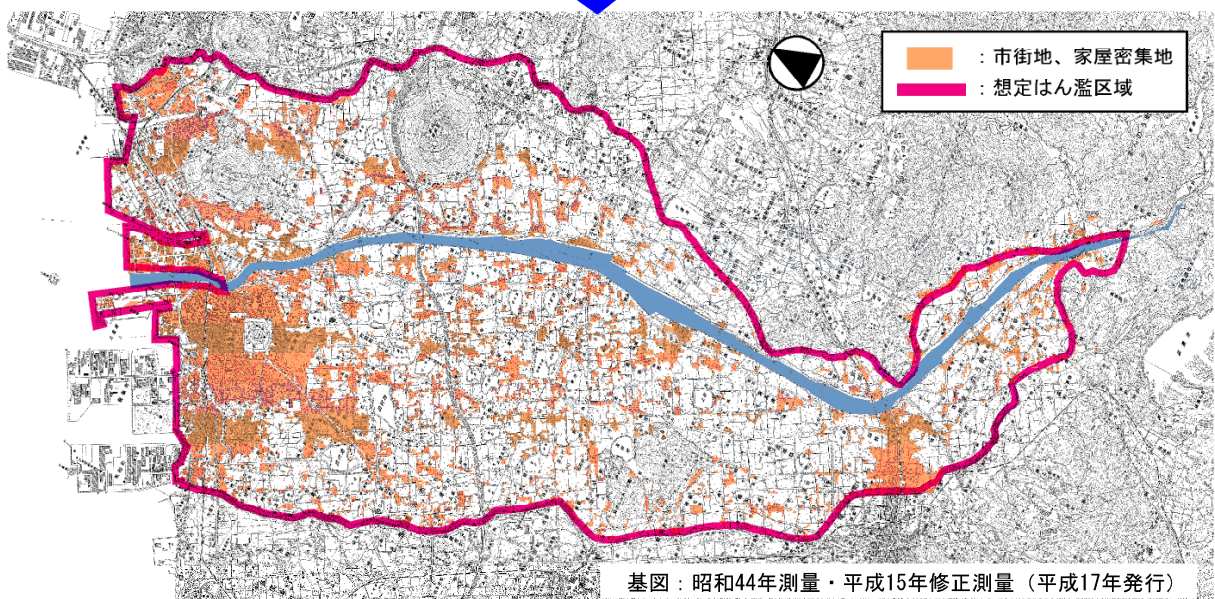
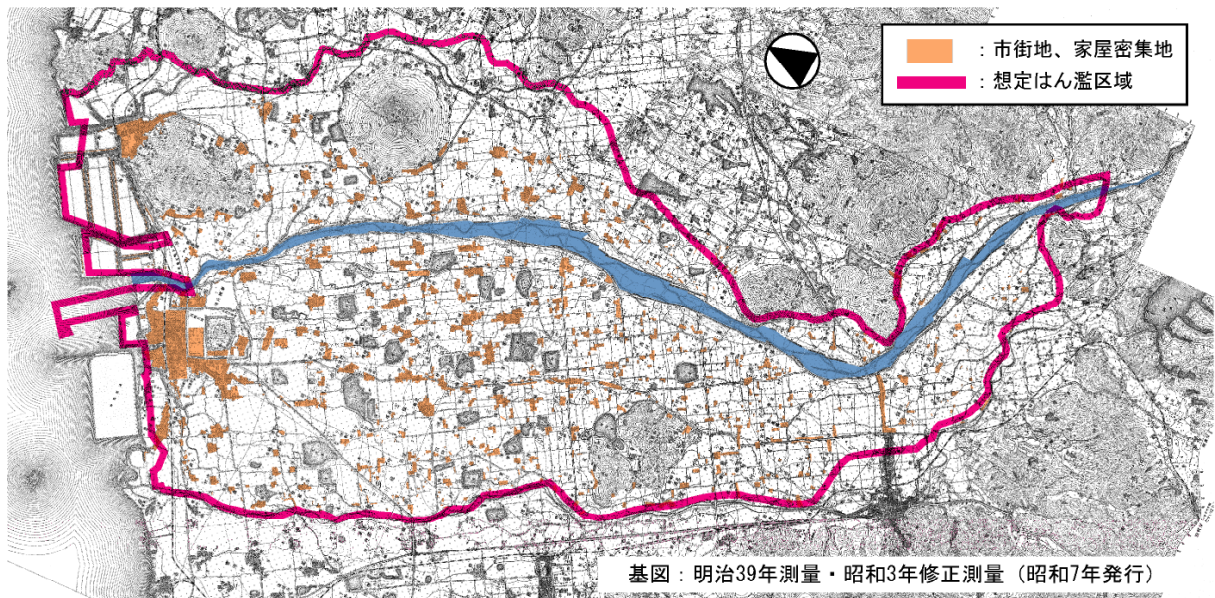


図-1.1.12 想定はん濫区域の市街地・家屋密集地の変化

1. 土器川の概要

(7) 交通

流域内の幹線道路は、一般国道としては下流部を横断する11号、中流部を横断する32号、土器川に平行して走る438号の3路線がある。また、土器川河口の東側に、本州四国連絡橋の一つである瀬戸大橋が昭和63年4月に開通したことを始め、土器川を横断する高松自動車道が平成4年4月に開通し、四国における交通の拠点としての重要な役割を担っている。

鉄道は、高松市から松山市を結ぶJR予讃線<sup>よさん</sup>、高知市に至るJR土讃線<sup>どさん</sup>、岡山市に至る瀬戸大橋線が連結し、四国と本州とを結ぶ重要な要所となっている。また、私鉄は、高松市から琴平町間を結ぶ高松琴平電鉄琴平線が運行している。

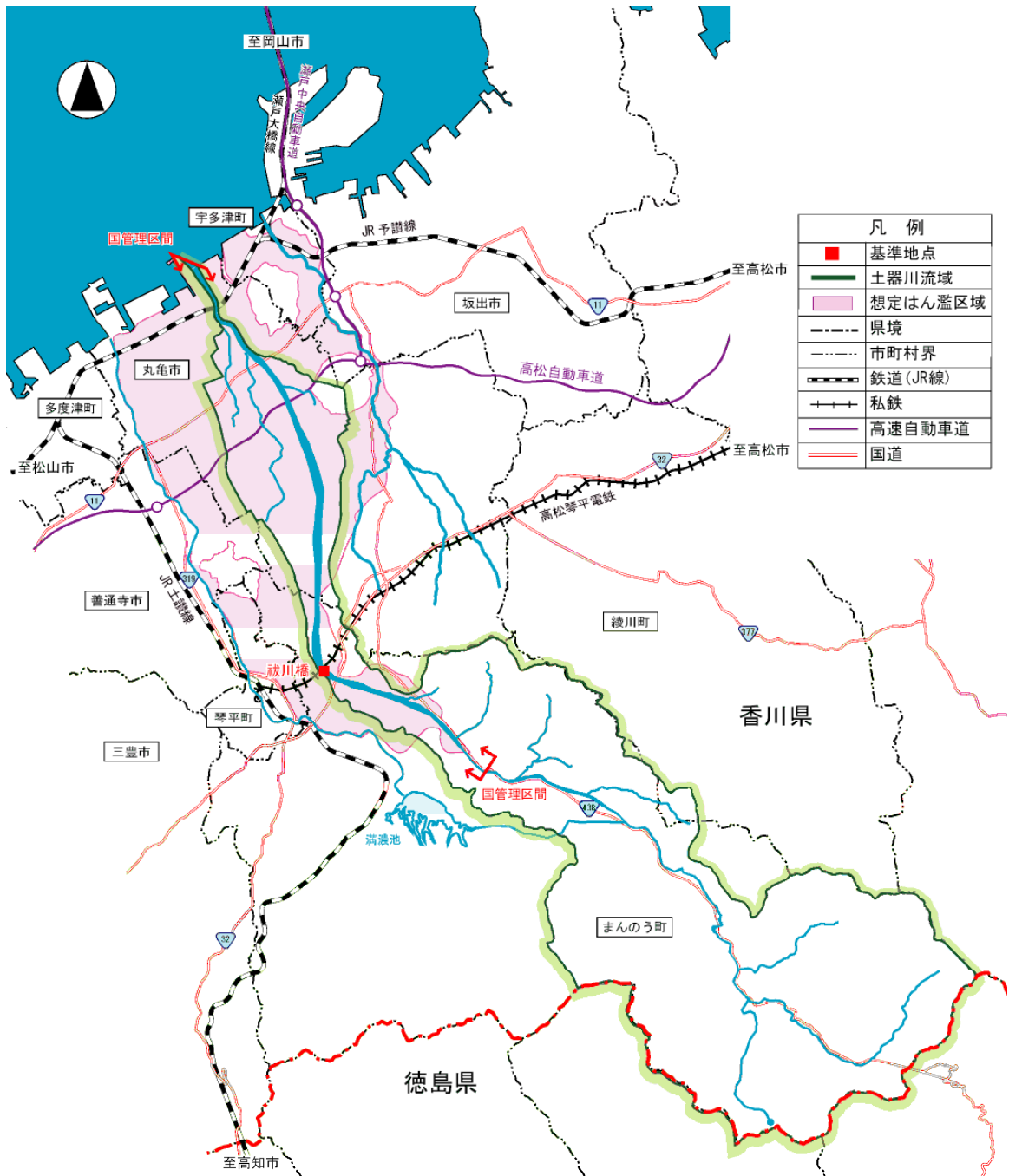


図-1.1.13 流域の主要な交通網